

《各音域の特徴》

- 低音域…この楽器の祖先の名を継ぐシャルモー（Chalumeau）と呼ばれる、暗い「劇的」とも表現される独特の音色である。
- 中音域の音色…下方は少し空ろな弱い音色だが、上方はこの楽器の語源となったTrumpetの一種クラリーノ（Clarino）の名で呼ばれる、晴れやかな美しい音色に変わる。
- 高音域…単簧楽器らしい明るい透明感ある音色が続くが、最高音域では刺激的な音色となる。

次の例は、中音域クラリーノの音色が活かされた楽句である。

Mozart : Clarinet Quintet

Clarinet in A

*p*

《Clarinetの奏法》

Clarinetの運動能力は、Flute同様に充分にある。また強弱表現の幅 (*pp*～*ff*) が大きい。そして（Oboeとは反対に）他の楽器の音色とよく同化するので、伴奏的役割も得意である。またClarinetは木管楽器中、Vibratoをつけない楽器である。

- Tonguing…発音時は舌とReedが接触しているので、Oboeと同じくTonguingには制限がある。
- Glissando…特殊な奏法であるが、完全なGlissandoができる。

## 【楽器の歴史】

中世紀にあった楽器Chalumeau (Shalmey) のうちから、重簧&円すい管のOboeと単簧&円筒管のClarinetに分かれて進化した。しかし単簧楽器の発達は、重簧楽器に比べ遅れた。

1700年頃になって、Denner (デンナー)<sup>1)</sup> がChalumeauを改良し最初のClarinetを作った。Chalumeau族はRecorderのような胴にReedをとりつけただけの楽器だったが、彼は吹口を独立させ、高音域を第3倍音によって出せるよう、"Speaker key"という特別な鍵をつけた。近代楽器Clarinetの誕生である。また後にDennerを継いだ息子によって、管端に朝顔 (Bell) がつけられた。

こうして楽器は徐々に広まり、Mozartのいくつかの重要な作品が生まれる頃にはさらにKeyが付け加えられ、1840年頃にはKlose<sup>2)</sup> がFluteのBoehm-system (第4章木管楽器～Flute族【楽器の歴史】参照) をClarinetに応用し、ほぼ現在の形となった。

## 【Clarinet族の派生楽器】

標準のClarinet in Bbより1オクターブ低い音を出すBass Clarinet in Bbと、完全4度高いClarinet in Ebなどがある。

---

<sup>1)</sup> Johann Christoph Denner (1655-1707) ドイツの楽器製作者。

<sup>2)</sup> フランスのClarinet演奏者であった。